



データコントロール活用法 - Part3 -

葛西 秋雄 | 有限会社フレンドリーソフト
KASAI, Akio | <http://www.friendlysw.com/>

Level

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

Technology Tools

- Visual Basic
- Visual C#
- Visual C++
- SQL Server
- Oracle
- Access
- ASP.NET
- Other:

Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、<http://www.shoelisha.com/mag/windev/>からダウンロード可能です。

はじめに

前回は、JavaScriptを使用してデータコントロールの行をハイライトさせる方法を説明しました。

Part3では、データコントロールにページング機能を追加する方法を説明します。DataGridではページング機能がサポートされていますが、あまり使い勝手がよくないのでページ移動ボタンとページ番号を使用してページングできるようにカスタマイズします。また、Repeater/DataListではページング機能がサポートされていないので、PagedDataSourceクラスを利用してページング機能を追加します。

DataGridにページング機能を組み込む

DataGridにページング機能を追加するには、デザイナーからDataGrid

を右クリックして「プロパティビルダ」を選択します。「プロパティビルダ」のダイアログ (図1) が表示されたら、左側から「ページング」を選択して「ページングを許可」をクリックしてチェックマークを付けます。「ページサイズ」には既定値の「10」行が表示されているので、必要ならば変更します。「位置」のドロップダウンリストでは、移動ボタンを表示する位置を「上」「下」「上下」から選択します。「モード」では、「[次へ]」、「[戻る]」または「ページ番号」のいずれかを選択します。

「モード」から「[次へ]」、「[戻る]」ボタンを選択したときは、「[次のページ] ボタンのテキスト」と「[前のページ] ボタンのテキスト」にボタンに表示する標題を入力することができます。既定値は、「<」と「>」になっています。

「モード」から「ページ番号」を選択したときは、「数字ボタン」に

ページ番号の個数を入力します。既定値は「10」になっていますので、10個のページ番号が表示されます。ページ番号が10個以上のときは、「...」のようなリンクが表示されます。

ここでは、「モード」から“ページ番号”を選択します。その他のプロパティは、既定値を使用します。「プロパティビルダ」から [OK] ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

デザイナーに表示されている Data Grid オブジェクトにページ番号が表示されます (図2)。ページ番号のリンクをクリックしたときに目的のページに移動させるには、Data Grid に PageIndexChanged のイベントハンドラを追加します。

デザイナーの未使用の領域をダブルクリックして、コードウィンドウを表示したら、左上の「クラス」のドロップダウンリストから“DataGrid1”を選択します。右上の「メソッド名」のドロップダウンリストから“PageIndexChanged”を選択します。Sub DataGrid1_PageIndexChanged イベントプロシージャが生成されたら、次のコードを追加します。

```
Private Sub DataGrid1_PageIndexChanged( _
    ByVal source As Object, _
    ByVal e As _
        System.Web.UI.WebControls.DataGridPageChangedEventArgs) _
    Handles DataGrid1.PageIndexChanged
    DataGrid1.CurrentPageIndex = e.NewPageIndex
    BindDataGrid()
End Sub
```

引数 DataGridPageChangedEventArgs の NewPageIndex プロパティには、Web ページからクリックした「ページ番号」が格納されています。このページ番号を Data Grid の CurrentPageIndex プロパティに設定して、Bind DataGrid メソッドを実行します。

図1：DataGridのプロパティビルダからページングの各種プロパティを設定する



図2：デザイナーのDataGridにページ番号が表示される

ID	得意先	担当	電話
データバインド	データバインド	データバインド	データバインド

リスト1：DataGridに得意先テーブルをバインドする (dg1.aspx.vb)

```
Sub BindDataGrid()
    Dim strSQL As String = "Select * From Customers"
    With DataGrid1
        .DataSource = CreateDataTable(strSQL)
        .DataBind()
    End With
End Sub
```

BindDataGrid は、DataGrid の DataSource プロパティに得意先 (Customers) テーブルが格納されている DataTable オブジェクトを設定してから、DataBind メソッドを実行します (リスト1)。これで、DataGrid に目的のページが表示されます (図3)。

DataTable に得意先テーブルを格納するには、CreateDataTable メソッドを実行します (リスト2)。CreateDataTable は、DataAdapter の Fill メソッドを実行して得意先テーブルのすべてのレコードを抽出して DataTable に格納して返します。